

今回の中央労働講座では全港湾の歴史や港湾労働法 日本の政治情勢そして労働組合の今後について学ぶ機会をいただきました。私はバス業界という立場で参加したので正直なところ港湾特有の制度や用語には馴染みがなく最初は難しく感じる部分もありました。しかしその分これまで知らなかった世界を学ぶことができ多くの気づきや発見がありました。特に印象に残ったのは港湾労働の制度や現在の仕組みが先輩方の長年にわたる闘いや努力によって築かれてきたということです。

また全国の仲間との交流を通じてそれぞれの職場が抱える課題や悩みを知ることが自分たちの職場を改めて見つめ直す機会にもなりました。

講義の中では自動化が進む地方港の現状についても学びました。特に港の自動化は人手不足の解消や効率化といったメリットがある一方でその流れが六大港へ波及した場合雇用の喪失という大きな問題につながる可能性もあり難問を目の当たりにしました。このテーマは現在バス業界で議論されている自動運転化の問題と根本的には同じだと感じました。技術の進歩は避けられませんがそこで働く人の雇用や生活をどう守るのかという課題はどの産業にも共通するものだと思います。

また森屋さんの講演で語られた「合法的な奴隷制度」という言葉も強く印象に残りました。社会や政治の課題を考えるとともに組合として何ができるのかを改めて考えさせられました。

今回の3日間は港湾労働だけでなく自分たちの業界の未来についても深く考えることができた非常に有意義な時間でした。学んだことを職場へ持ち帰り今後の組合活動に活かしていきたいと思えます。